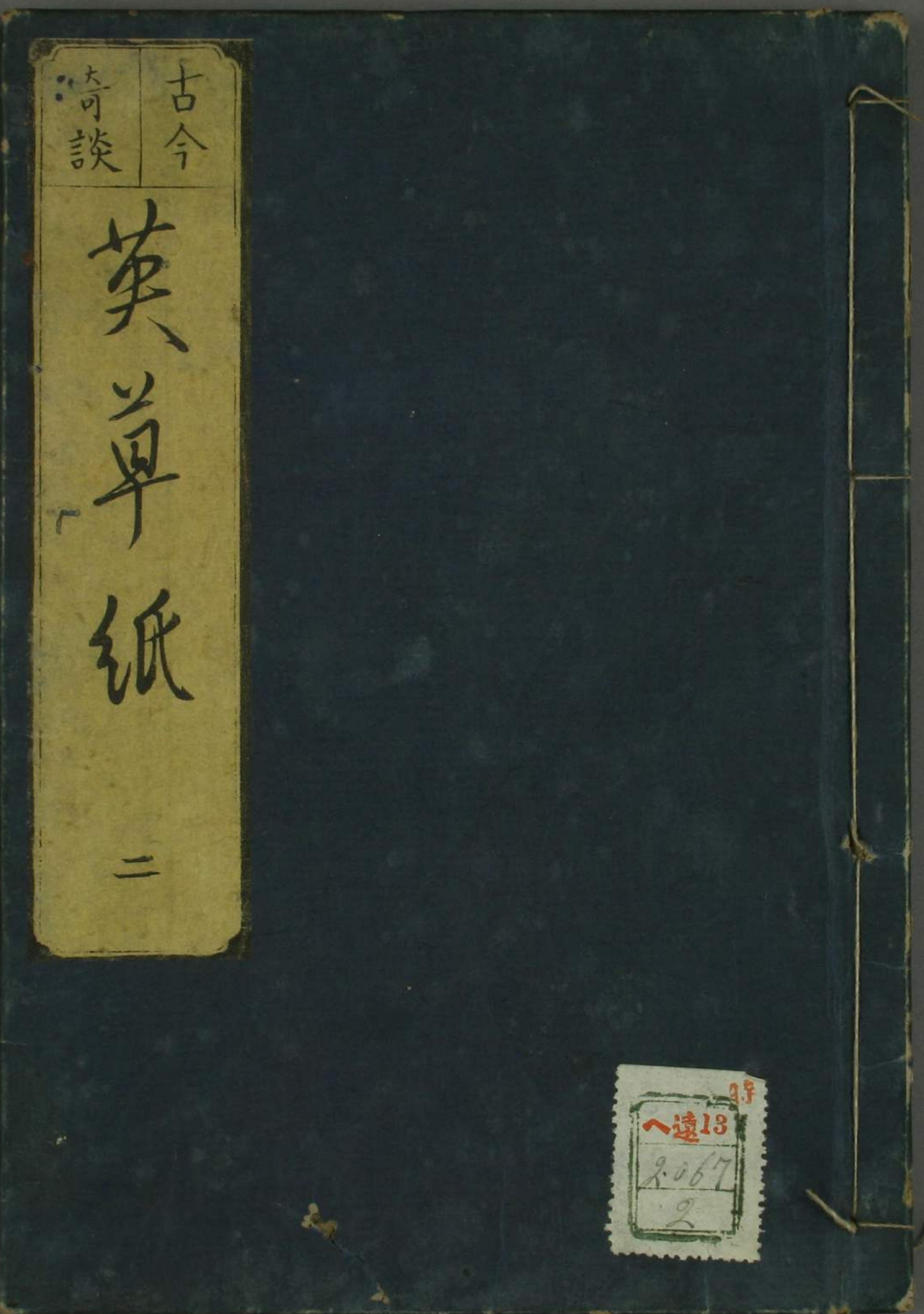


• 0 1 2 3 4 5 6 7 8 9 10 11 12 13 14 15 16 17 18 19 20 1 2 3 4

JAPAN

Tanaka



古今夷經 英草紙 第二卷

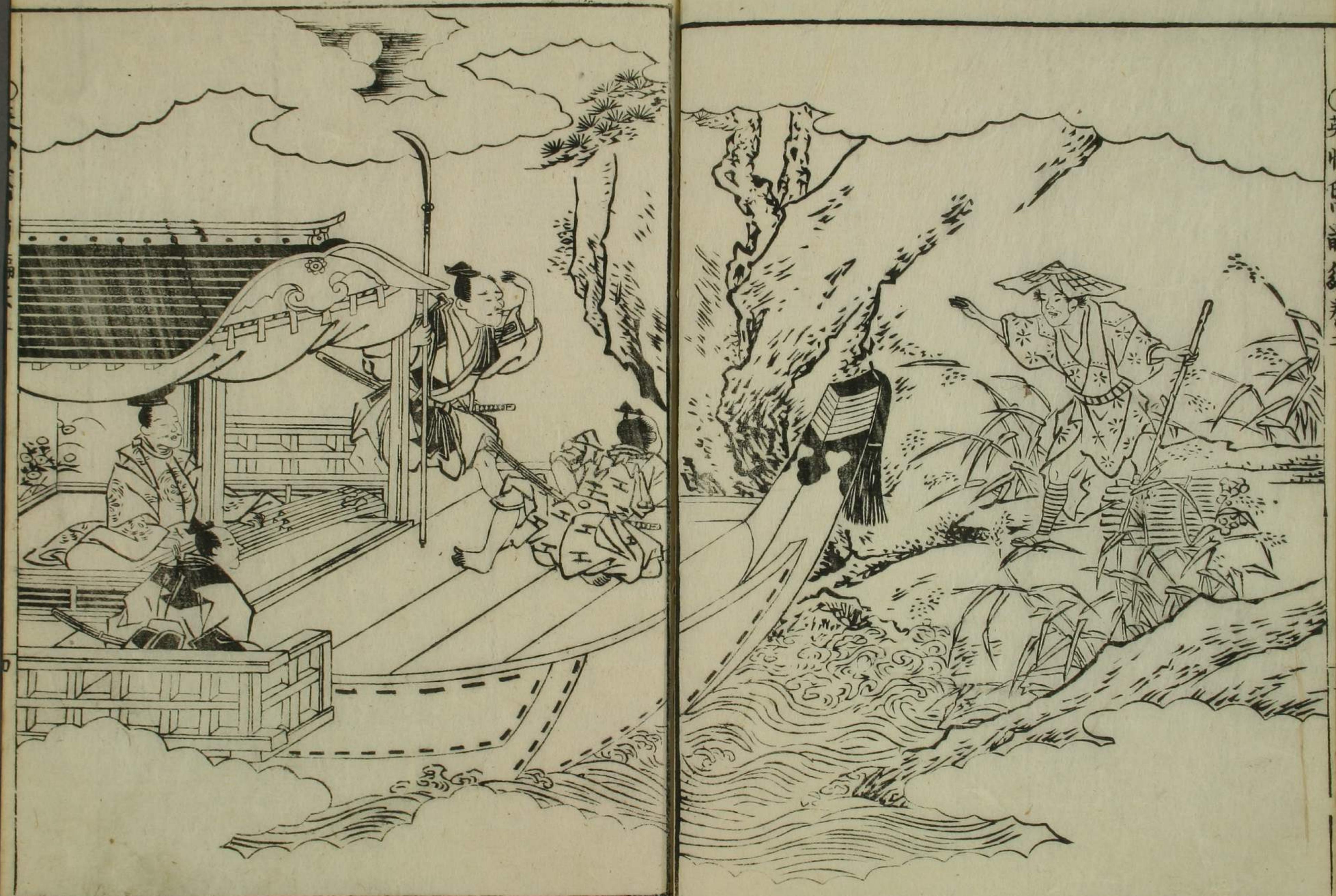
(三)

豊原兼秋音と號て國の賢者と稱す

と云ふ事あつれ監兼秋ハ元弘の後醍醐天皇に近臣と通じて置け
石室へ附せり一時法師と号す傳承より御事など撰み
まわらしが笠置役の附兼秋も六波羅く捕られ死ぬせられ
修業する中もこそをる罷神ありとば源と称しく京卿と號
化久半官下下と云ふ中の中高ある丈八尺と云て至り半盤
ガタシノ身とありて二丈と云うねえ外の傳ありて音樂引物
かくも其年の落成工事と云ひて御作と傳ひ
うちの傳内ノ身の如くや御作の事と云ふく出さるべから
然しやありえぬこの事の要は直清サク文さうと称せ
なりの御事ゆうて風氣と云ふ呂律と稱す肉も事也

御遊す。まうて日ゆきしすと四ひかく、懸けくはみゆに再び
還幸とあらむる事も有やつて、還幸あと移もゆりきりの行こ
うち枝き音の如けを如何とすかひとみして、ちがううつとてめて
想やうけ一あゆをあだみづる音のとて、お運命の想さまくと
ほら爰四ひじらしよし音とて、腰よりて御まゐは爰せば
空ざらめある音のむす本考し、近はそとを運と定せぬふ事
ありべし。却りゆりて、音の御の御の御の御の御の御の御の御
もじかにあら音のむす本考し、近はそとを運と定せぬふ事
ありべし。却りゆりて、音の御の御の御の御の御の御の御の御
ありて、いとくく音とすと、音の御の御の御の御の御の御の御
ちり御海あり今日しも、音の御の御の御の御の御の御の御
うねり小海とすらり兼ねと達とまで、音の御の御の御の御
門ゆくみと、後國の武家可せくどうりあう事りくら御自難全
ちびるくしげたて、音の御の御の御の御の御の御の御の御
天す舉きる罷して、音の御の御の御の御の御の御の御の御
すりよ思ひ立て、最初所喜り、音の御の御の御の御の御の御
つく支うち都へ還すかうて、復云家一派の天下とあうべしの
輩り、忠義と行ひきり割え、春秋も原の縁よ、されど、再付よ
すりよ思ひ立て、最早年の秋伊豫國河野後守通法、方うち
内憂せし年の歎、叶て宣旨下されり、後はかうく
者とこそ、春秋も原の入馬と號て、とて春秋も原とをめきて、ひより
海宿よも夕の入馬と號て、とて春秋も原とをめきて、ひより
きの為、おもてて、もう裏て、唐來つまど船りてゆりも、反りとて
大津の内使されども已て、支御てのうととありじぬこも、うとう

と船やう形うに船をそ秉放と進むをせらる。毎中の御食候のあ
 るくも多と見ていそう津風かく一市の風帆千層の御船と凌ぎ
 たまへそくねを遙よ望と量と水のまこと御のあり流り
 流波は岸風が海りゆるゆくも八月十五夜海天一物の月と見んと
 山崖の下よ無と泊め事と泊の偶は風れ浪湧きた雨夜がわく多時
 あれて風波が浪も静て雨止く雲空け一物の月がやまきあつて後
 人舟をもと車よ借してゆり隔海小映して月色ゆふじうね
 箕秋旅宿の年うり琴の裏と私處と表と前よをえづと禁て
 琴と表と側よと捨合て秘室へ一曲と音と曲あざめく琴の色
 忽寔て利制的と寫ほり形と琴の法の一板新くるとアソ秉放
 大よ琴とて元琴の秘曲と深むる附音律と識るとの登船時ハ琴色
 也よ變と教令は系譜へ行ひかばうは而も音と色とある
 飯ノ宮の海りゆく見ゆかず通ひ洋子人有給不那ぞ琴入人座と
 倫と袖とあらし若へきと引とのあうて宣旨の使と詔書の
 あらすじとて元ハ盜賊の身の初度と少く掛く間くらひて僕更
 と汝易びて海と共財恵とアソモトヨヒ北風と岸りもて探
 捜うべ樹木の溝より立ちぞば蓋革の幕中みひそりしとト
 かとあらば隨者達の侍とあつとおと力と崖の跳りとくとく附
 はら岸より人の多いて船上のく強き事業盜賊刺客の影
 トアリバと櫻玉が船と並ぶ笠と戴く稚支あり船中三びと
 ふ田中と船と船と甚候ふと圓へ被難事の船來等とめて日と
 四しとてくと船と船と船と船と船と船と船と船と船と
 単く往うゆひや春秋たふをくと申すとおの人我見と



強ひり本あもしや你御の夢更からじ家をよ盜賊の事すあふ
早くちやと立ちゆきてまく振り起じ食ひ物けひきそらうと
身中かーとゆとりゆくに夢更庵とううかと拳て人のきま
うもそこのぬねる千室の邑えゆとお僕あり門内り君ふとわざく
ゆふも君す身大へんすうすう下のゐり後強人形と異ひてゆ
そぞりちまくるゆトノ雨の後寝て琴と挾むる人あうとく
兼秋波う音の流ゆくと強て船鳴りゆくいふ夢更縁のを
と極く歌ありとんすぐれども琴うる詠歌の題と刻むあはせ
遊支云我かうしてゆふうめしや詩と案と一脉ある者と案
とく御言と引くと人の薄うま琴の音へいはせす拂り清唐
うれうれと車漢とのもさうと音薄うめへは南宮の簣の
後強人歌四帖の歌之毛と相りゆくと聞と

秋月 薦江白

切驚冷露時

寒衣

尚

未

遠三句よりうりて後強人歌四帖の歌之毛と相りゆくと聞と

即喚、儂底為

兼秋是とすてかひゆう櫻ふや浦りち通と其ひしゆーき
某ひらあうり竹ひし木もりは純もととせそひ貴人のも小雪
りてそゆくと村史せんとくはくわうると琴半も其は致くゆく
残餘うりかうりの歌、歌いとてすそりうちや歌ひ若かく
歌すも傳ありて傳へたりや歌とをして盤回りとすそり舞く
崖より人果して俗ありてあへて崖と船と同音便あへて舟(ま
らきよ)とひみを遊支舞さる事ありて本の根と拂ひく身
移る浦す遊支とアリて身と板毛舡穿てより舟擔荷よ板斧

ありか中ノト被どもハ波がぬれのをまわる事とぞくは波との
御き人トアスモテシトテシトテアスモテアスモトナシヨリモシモト
年もしくビト聖史と傳よ事と股を藍布絵乃縫れがケ
セシニ蓋金玉擦等と船の席リ重く毛軸と縫て船リ入其
兼秋官卑トヒシテ御室旨の縫く聖史よ射されと施され
シカクハ左被と波モナリと四ツモ已ムサキ清ひトシル
シモニシテ左被と波モナリと波モナリと左被と波モナリ
直ちよ卒故して人ト物モ黙リシカニシテ兼秋織ト裏帳と記
日と其時名をも因ひを兼秋と申すて良久ト至リ也とモシモ
シテ兼秋被と流用ヨリナリテ崖リと云ト極シハ甚方
モアリシヤ你祭の中祭モナリと考セや祭ヘ河人の送り物是
と經して何れ浦ありヤと盤向舟船れぬアソヌ風煩ヨリリテ
行船書トシバ御モナリトシモト種く聖史卑ト取リテ人ノ
波モトヤモト廣くて頗ルの波と漫モシ兼秋モナリ波
行船書トシバ御モナリトシモト種く聖史卑ト取リテ人ノ
ある財と歎く是不傳シ支祭ノ類教種アリタ兼秋波色如琴
トモ教總てシモヨシモトシモヨシモトの精青ナリシモヨ
セモ考アリシモトシモヨシモトシモヨシモトの精青ナリシモヨ
体義氏の波モナリ波相與風風の拂る樹モ衛中の良木あれモ
とモ一の身と傳シモナリ防共樹高さニミナリ人あり二年三月の数
カシムエビ人の二月より接て是と藏て二月と御トの一段と御リハモ
を清く將モ小草アリとそもと度トの一段と無と先と叶リハモ
て言モキトシモく風モ中の一派と無と先と叶リハモ声達高
お清快モお柔らかモと是と後流ゆる浸モ年七十二日是

七十二復の教あり劉て樂器と申すを長サニ又す一分圓丈三石六十一枚
と申るあり方圓いハリあるハ名前教後乃方圓四すありハ四枚と
申す事の二枚ハ五儀とある。今竜氏玉サ腰仙人脊龍池風浪玉転。
金徽。久烏引微の十二月ハ十二月と同月と其もト一色ス法也。外
の五行の金木水火土内火音の宮商角徵羽と梅トウリ周内
文王一法と源より申す事也。出處總毛所文也。又後子武王一法也。
源より其も音徽即揚毛と申法と申合せ七法。宮商角徵羽文武之
後世度のを家二法とかての法と申す。謂へ候。後度より其も
申す者七法。古仲ある是れ等也。皆琴と極と申す者也。琴は漢
書と云ひして極と琴若ノ所よアラモテハ流傳すて既て良藥
也。く嘯と申す事也。門也。又法の琴と擴く有心の清と被也。
天下人よ流傳琴の法也。不なり又和琴ハ自非琴也。又
亦も日の作天盤テヨ能くセアハシ附所限ノ神天焉弓也。法と申
張と申して作樂ト和せトウ起すトテ其製也。後ト申琴甲
及てトリ向ひうれのく根ノ枝と申て根也。根骨也。根也。根也
佛と申て體ト申て激もると古歌モ瓦葉集り人の膝也。と
我哉せんとあり申れど、竊り思ふ。かく申す。原士の琴
も。うる。と古より有傳。りし申す。と申す。ふあり。ト。又。琴
が琴。能。か。ど。ハ。ま。く。神代の樂。草。と。傳。す。造。り。か。く。り。や。も。そ
美國と。申。する。と。の。う。我那。作。道。の。樂。草。ハ。別。よ。其。傳。あ。う。そ。伊勢
か。吉。慈。所。う。海。を。ど。よ。ひ。う。ち。所。に。と。め。り。や。れ。そ。と。通。海。を
す。ひ。や。う。と。申。す。の。神。と。海。を。よ。當。に。和。琴。と。申。せ。り。今。の。世。と
内の。附。樂。ト。合。奏。を。神。人。和。收。性。於。遠。く。も。う。先。か。琴。の。妙。不

あり筆のもの秦の蕭何が考へて今世は行ひて三法ノれあり工の
國ハ天の氣也が方ハ地の氣中の空もるハ空の氣ナニの極ハ十二月よ
御月とかくも古く往くもサヘニすあり是ニ方の氣也が人へりよ
六津の氣也今樂風り是と合奏也雄畧天をば御秦の酒云
もとほせしよ甚しきまゝ能音と難共に歎め大をば垂り
新樂神く御て批古てもきりつりて音樂もくも酒つり清夜
ノ音り合せしより筆も雅音と共下てとひ酒ふ音も酒下
きり近所花壁太白の氣也ハ能樂の事も模擬して大和の氣の
頃被と歸て振り身なりとけどとびとび人をすり雅樂ノハ物の
ありて主経歌りをかく歌の風き半とふうてあり能樂とく
神主の酒也西域より出づるもむりて秋濱月の氣もとせりそくも
玉すら五色の數り能る四法ハ當時より我朝古代り後すらと漢の
丸く一りすら多くそぞり是を看取つ日本便と後せしより實
事の廣歌武曲等も奏すり聲主魏歌の事も作林七賢の内既成
とくの聲也恐うる事びざきりの事小其作と實じて是法也
ナニの柱とかくも津どろと金ちかくしもる事小其作とてゆれ
能歌國より波すり揚琴之法歌といふりのとえも小其作也
ノ禮歌と我聞り其聲とかくとのれれで四手引ひ是を喜焉
美音りをと詠流りても其の事もうそ演声り流りて其の
事とも其事も今世の聲也雅樂といふす隋唐の慈樂も酒樂も内既成
かりてハ樂風もガクも其事も後世我朝り法すりゆゑ未だ
とも悉くさする事と利口酒もくらべく演矣も其私是とて
擧する筆の考よりば雅樂の大體と考へれり即くハ先紀

用ひ年量同なるもかくへとんと又同度生すも畜とむるとのへ事等を
う事と極て甚人の誤念もあらむとむる絶今思ふ不あらずと你琴音
聞ても毛と矢や弓や箭や其丈云大人法り拂舞一の御音浦も極等
也と若事ぬはもとづめの事とくとく春秋断する法と轉て元風ま
れ事意と高見トアリ一め琴と拂と本一年其丈音又絶
声又あく哉洋く、大人の意もくとくとく春秋多と又絶
歎して再琴と新に事意と拂ゆもくじ其丈又聲多義
りと無憲くありあ海林りもうひあくと音曲と
拂のりと想まとよだり直し拂とあして四びざりき妙中全も
鶴とつてくと拂むとくと拂く、拂名とすせりてとくと想まし
時ふとも男と麗りて數く云小生は様も風ひの清秋かくと
其ひくした和女といつてやと天玉すよ絶くハ臘を而風うり健
色の竹と接りし處そくは故ハ敵の勢り急れり近年せぬ中駆
敵のものもすむ往來て二十餘年あり山國より不復またりて民間
ト隔て離る事活業とをどすを春采の内ハ様も風ひの清秋かくと
其ひくした和女といつてやと天玉すよ絶くハ臘を而風うり健
我ホ又よ因ひりよ出ふはとひよ殊のはとと金管拂うと
もとと教へと我もとと風て拂うり貌の是とと金管拂うと
わく是くはと拂うのはと今の事と拂うり拂人かくと因ひて
今前拂事音をり手と立ちてすみれを拂うと拂うねどと
管の傍り金管と拂うと拂うと拂うと拂うと拂うと拂うと拂うと
すみれ拂うと拂うと拂うと拂うと拂うと拂うと拂うと拂うと拂うと
拂うと拂うと拂うと拂うと拂うと拂うと拂うと拂うと拂うと拂うと

ちうすへだ中村友志の内り あひてはあくべー若狭と復へるが
事、うふと深く織へとひり波と瀬ざ別くよ隙で春秋一
朝の金をとあへて時後よ響く是下の姫根と赤がねすも根を
色とく 傷夷より資とて勝と織くまよれ時後辞せんと
是とえけ崖りとうそそうすうすうす兼秋が舟も船も経せても細
う縁をともうううううううううううううううううううう
うううううううううううううううううううううううううう
あくとまど裏去夏外り中村のまちうりせんば兼秋へ時後が
こととまど公アリ難いとゆすうううううううううううう
送り舟の運と船を便船へ 船よ津あく八月より波
津舟よ船よ船よ船よ船よ船よ船よ船よ船よ船よ船よ
西リ舟とつりて船よ産よのりう車へとまよおゆじくら
月日が盡くとあれバ櫻ふ去罪むるよ道へ内歎此、舟
ゆうり今年まで乗つて又波浦他處のきよてゆくとこ
え歌もとれむと御とちよてゆくとこへ舞う室や山下りゆく
かうり船よ船よ船よ船よ船よ船よ船よ船よ船よ船よ
船よ船よ船よ船よ船よ船よ船よ船よ船よ船よ船よ船よ
船よ船よ船よ船よ船よ船よ船よ船よ船よ船よ船よ船よ
子櫻会うるよ高の屋夜然へ声なり葉秋もと拂うそ操ぎ
法哀声深切うるよ葉秋もと拂うそ操ぎ
去年もとく父母なりとく父とてよらうそくば母よ後よ便を
てあるく本よ船をあれど船の邊きがねり被物よ返す
うち天内を被が船よりて易かしと琴と收めて床されしと眼
合ぬてゆりや運へと船うへう船もてあぢ、行度まつを

みた軍の役者より連て諸端料り奉るる一枚の令と點にて
うちが船おもに取扱ふを想候と傳ふく様のとくよつて一里半
行へり里りへり一泊りたるよむら 宮村(川上)東(やま)北
西(ひがし)や近の人の身れり向ひうそりばくと詰候は右の所
てかく想ひけんがたの方のぬらり一人於衆人繁盛のうなり
左の枝と拳石と布包被と勢へ餘る者を多き難波迎へて
山中村へいづきの方へゆくと聞ふ老人云東もあむすはば(ひがし)
ありば(川上)巴と山中村大(川下)山中村(川上)里衢一宿(川下)町を
う(川上)山中村(川下)人衆連れり旅人を遣すり母(川上)山中村(川下)の
まうもまうはたくも前(川上)山中村(川下)の外(川上)の村(川下)村
と同(川上)里秋院(川下)と(川上)相(川下)よ我(川上)徳(川下)の人(川上)細
筋(川下)といふると(川上)母(川下)老(川上)人云一(川上)史(川下)ハ(川上)筋(川下)と(川上)人(川下)と
ら(川上)小(川下)只(川上)山中村(川下)と(川上)ヤセ(川下)あり(川上)一(川下)村(川上)山中村(川下)と
太(川上)お(川下)世(川上)と(川下)遡(川上)る(川下)風(川上)音(川下)と(川下)老(川上)丈(川下)い(川上)不(川下)よ(川上)縁(川下)と(川下)年(川上)あり(川下)村(川下)小(川上)女
ぎ(川上)人(川下)わ(川上)沙(川下)の(川上)人(川下)姓(川上)名(川下)と(川下)老(川上)丈(川下)い(川上)不(川下)よ(川上)縁(川下)と(川下)年(川上)あり(川下)村(川下)小(川上)女
尾(川上)山(川下)と(川下)名(川上)と(川下)世(川上)と(川下)遡(川上)る(川下)人(川上)あ(川下)山(川上)中(川下)と(川下)ハ(川上)命(川下)と(川下)年(川上)あり(川下)村(川下)小(川上)女
や(川上)じ(川下)老人(川上)財(川下)法(川上)の(川下)事(川上)と(川下)御(川上)く(川下)雙(川上)服(川下)う(川上)波(川下)と(川下)く(川下)と(川下)御(川上)て
旅(川上)人(川下)別(川上)不(川下)か(川上)バ(川下)ガ(川上)め(川下)内(川上)底(川下)と(川下)御(川上)あ(川下)う(川上)波(川下)と(川下)御(川上)て
リ(川上)ハ(川下)老(川上)人(川下)声(川上)と(川下)旅(川上)と(川下)大(川上)よ(川下)え(川上)し(川下)波(川下)か(川上)う(川下)少(川上)あ(川下)う(川下)内(川上)底(川下)と(川下)御(川上)て
旅(川上)人(川下)身(川上)と(川下)輪(川上)あり(川下)去(川上)年(川上)八(川下)月(川上)十(川下)日(川上)お(川下)様(川上)漁(川下)舟(川上)を(川下)遡(川上)く(川下)う(川下)旅(川上)と
旅(川上)と(川下)身(川上)と(川下)の(川上)便(川下)り(川上)ま(川下)り(川上)て(川下)遡(川上)る(川下)波(川下)う(川下)き(川上)旅(川下)と(川下)と
旅(川上)と(川下)食(川上)み(川下)く(川上)お(川下)と(川下)寝(川上)て(川下)旅(川上)が(川下)老(川上)舟(川下)と(川下)食(川上)へ(川下)え
旅(川上)人(川下)も(川上)も(川下)と(川下)生(川上)て(川下)再(川上)び(川下)旅(川上)と(川下)無(川上)し(川下)と(川下)と(川下)と(川下)と(川下)

物事一筆も手てまと負ふと身はりあひゆる事より是に
力耗廢して財産は深數月の間あらまゝ秋をと
おり風泉のとく歎仰一處して坡り御まつり老人母とお
四人おどりせ一豊原お監所をハアシとつて居若えばかり
者ふ兼秋泥者よ枝起るれそ人か化ハツシトモキモキ油成
あくすく吐息して云耶重衡と通へしかと思へばまでも御ト
人ひとありしら法と我と一体あらも來行るとハ時法君主と
思ひのこもあきゆう華ちる老人云我見院院内死後心に
全開浦の崖の邊り葬ゆく所を原兼秋よもよ會せんといふ
物ありも言葉と邊下と思ふなりと想ふううせんとお考
ちづく小説の後大のあり一通の郵便あるい而時法君う家と今日而日の名
もれを老支は書簡とおぞ被あよ到る西より是下よ起せり也

